令和4年度　　学校評価　自己評価書（一覧）

評価基準　A―80％以上（良い）　B―60～80％未満（まあまあ良い）　C―40～60％未満（あまり良くない）　D－40％未満（良くない）

園学校名　安田小学校

経営理念	＜目指す学校の姿＞ 児童・地域・保護者から、信頼される学校を目指し、安全で安心して登校し、任せられる学校づくりを行う。お互いが切磋琢磨しながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付け、新しい未来と時代を切り拓く児童を育てる。夢や志をもち、その実現のため、学びあい、支えあい、共に伸びる児童集団、教職員集団を目指す。 ・一人ひとりの児童が個性を発揮し主体的に活動できる学校　・一人ひとりの教師が専門性を発揮し、組織として機能する学校　・保護者・地域との信頼関係を深め、ともに歩む学校 ＜目指す児童の姿＞ ・明朗活発で健康な児童　・優しさと思いやりのある児童　・感謝の気持ちを忘れない児童　・物を大切に、人を大切にできる児童　・思考力、判断力、表現力のある児童　・自己の目標に向かって努力できる児童 ・自ら考え、主体的に学習生活に取り組む児童　・勤労を尊び、社会に奉仕する児童 ＜目指す教師の姿＞ ・児童を大切にできる教員（深い愛情）・児童の力を引き出せる教員（可能性を見抜く力・高い観察力・対応力）・教育に対する熱意と使命感をもった教員（責任感・誇り） ・自己研鑽に努め、指導力の向上を目指す教員（高い指導力・知識力）・豊かな人間性と思いやりをもった教員（温かい心・コミュニケーション力） ・振り返りができる教員（検証する力）・早い対応ができる教員（指導や支援が後手にならない対応力） ・組織人としての責任感をもった教員（学校運営への参画・若年教員の育成）・家庭や地域社会との連携に努め、相互の信頼関係を高めようとする教員（連携・信頼）

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	○学力の定着と向上及び課題解決の育成	○各種学力調査結果の指標 ・全国学力・学習状況調査（全国平均＋5P） ・高知県学力定着状況調査（県平均＋5P） ・総合学力調査（全国平均＋5P） ○学習スタンダードの質的向上を図る。 ○ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりを進める。 ○講師招聘による研究授業、より実践的・効果的な校内研修を実施する。 ○地域教材や人材を活用した学習や体験を通して学びを深める。	○各種学力調査結果より ・全国学力・学習状況調査（3教科とも全国平均＋5P以上達成） ・高知県学力定着状況調査（県平均＋5P）は、自校採点の結果か ら見ると、県平均前後であると思われるが、＋5P達成は厳しい。 ・総合学力調査（全国平均＋5P）は、4年算数、5年算数・理科で達成した。ほぼどの学年も全国平均は上回っていたが、＋5P は厳しかった。 ○単元のゴールをイメージした単元構成を意識した授業に取り組んだ。（国語科を中心に） ○どの子も分かるできる授業を意識し、ICT機器の効果的な活用方法にも努めた。 ○講師招聘の研究授業は予定通り実施できた。（3回）学習指導要領を意識した授業を目指し、授業研の事前・事後の校内研修も実施した。 ○地域の人材を活用した授業や校外活動は、各学年計画的に実施することができた。	B	○各種調査の分析結果を有効に活用し、課題克服のために計画的に全校で取り組む。 ○基礎学力の定着に向けた、授業改善、チャレンジタイム等の効果的な活用について検証・実践・改善を継続して行う。 ○国語科を中心に、「読解力」を高める授業研究を推進する。 ○より効果的で実践的な校内研修の在り方を探り、研究の繋がりを大切にしていく。 ○地域との関わりを大切にした学習を、計画的に継続して実施する。	・各種学力調査ででどの学年もほぼ全国平均以上を達成できており、計画した取組が継続して実施できていることがよい。 ・どの子もできるように学校全体で計画した取組を継続して実施していることがわかった。 ・学力の二極化がみられるとのことだが、各教科の授業の中でできるようになる、分かるようになる喜びを感じさせられるような授業づくりを実践していただきたい。 ・確かな学力の育成に向けて言語活動を充実させながら、思考力、判断力、表現力を高める授業づくりに努めていただきたい。国語科を中心とした研究を推進しながら学校全体の取組としてさらなる充実を図っていただきたい。 ・年間を通して、地域とのかかわりに重点を置いた校外学習が充実していた。	B
	○家庭学習の定着	○家庭学習の向上を図る。 ・家庭学習強化週間（提出率 93%以上・学習時間達成率 80%以上） ○個に応じた家庭学習を提示する。 ○家庭学習の手引きを有効に活用する。（家庭訪問時に配布） ○自主学習ノートの充実を図る。（集会、放送等での啓発月1回）	○家庭学習提出率：92%　学習時間達成率：71%で達成ならず。 ○個の実態に応じた家庭学習の内容や手立てを行った。 ○家庭学習の手引きは配布したが、活用についての検証が十分でなかった。 ○自主学習ノートの充実を目指し、放送での紹介や掲示を実施し、意欲向上に努めた。	B	○読書週間（ほめほめ週間）とリンクさせ、家庭学習時間の達成率向上を目指す。（年2回の実施） ○個に応じた学習内容や方法についての手立てを行う。 ○日々の授業とリンクさせるなど、家庭学習や自主学習の取り組み方について検証・改善を図る。 ○自主学習ノートを紹介し、児童の意欲を高める。	・個に応じた学習方法、内容を工夫しながら手立てを考えて対応していることがわかった。 ・小学校の早い段階で学習習慣が身につくように、家庭学習の定着に向けて家庭への啓発を図るように努めていただきたい。 ・文化センター図書室の本を借り、自主学習をしている児童をみかける。家庭学習や自主学習の取り組みとして、自学ノートの掲示は子どもたちの頑張りを感じられるので、学校に出向いたときには見るようにしている。今後も継続していただきたい。	B
徳	○道徳教育の充実	○豊かな心を育む教育の充実を図る。 ・道徳意識調査（自尊感情、規範意識の肯定的評価 85%以上） ○家庭への働き掛けを進める。（高知の道徳の活用 50%以上） ○各種アンケート調査を実施・分析し、面接を実施する。また、個別指導に活用する。 ・道徳授業チェックシート【教師用】平均 3 以上	◯自尊感情の肯定的評価 81%　規範意識の肯定的評価 94% ◯「家庭で取り組む高知の道徳」の活用 60% ・道徳参観日では、「家庭で取り組む高知の道徳」を活用し、保護者との懇談に生かした。 ◯道徳授業チェックシート【教師用】10 項目平均 3.2 で目標を達成。	B	◯ほめほめ週間を実施することで、家庭の意識の高まりを目指す。 ○道徳参観日をうまく活用し、「家庭で取り組む高知の道徳」の効果的な活用を目指す。 ◯各種アンケート結果を効果的に活用し、児童に寄り添った対応を心掛ける。 ◯ブロックで授業研を行うなど、道徳の授業の実践力を高めていく。	・「家庭で取り組む高知の道徳」の活用について、目標達成できていることが素晴らしい。家庭への働きかけが十分できている表れだと思う。今後も、さらなる家庭との連携をすすめていただきたい。 ・「家庭で取り組む高知の道徳」を活用して、保護者と懇談することで、家庭と連携をした取組が行われている。 ・道徳教育は、人格形成の根幹にかかわるものである。学校の全ての教育活動の中で豊かな心を育み、子どもたち一人一人の未来を切り拓く力をつけていただきたい。 ・学校教育全体を通した取組の中で、自尊感情の向上に努めていただきたい。	B

	○生徒指導の充実	○生徒指導の 3 機能を大切にした授業づくりを行う。（QUアンケート「学級満足度群」60%以上） ○校内支援会（SC、SSWを交える等）の実施。（月１回） ○園小中連絡会を実施し、連携による児童理解を図る。 ○講師招聘（是永先生）を行い、指導・支援についての研修を行う。	○「学級満足度群」60% ○校内支援会は計画通り実施できた。 ○講師招聘研修（是永かなこ教授）は、計画通り実施できた。教職員のスキル向上が図られ、学級経営の充実にもつながった。	A	○講師招聘研修やサポート事業等を活用し、児童理解、特別支援教育の研究を進める。 ○Q-U 学級支援シートを作成、分析し、教職員で共通理解を図ることで、今後の支援に繋げていく。 ○園小中との連携を図り、児童の様子や支援の在り方について情報を共有しあう機会を持つ。	・「学校生活が楽しい」と感じる児童が90%と高い評価であることからも、児童が日々充実した学校生活を送れていることが伺える。今後も取組を継続し、さらなる充実を図っていただきたい。 ・全教職員で組織として取り組んだことで、子ども達が落ち着いて学校生活を送っていると感じた。 ・講師招聘研修での助言をもとに組織で取り組んだ結果、生徒や教職員の変容を具体的な場面と姿で説明いただけたら、取組の様子がよりわかりやすいので今後もお願いしたい。	A
	○読書活動の充実	○委員会活動と連動し、読書への興味、関心を高める。「本を読むのが好き」（85%以上：ほめほめ週間アンケート） ○読書週間を設定し、目標時間を明示して取り組む。（週 60 分：達成率 80%以上：ほめほめ週間アンケート）	○「本を読むのが好き」 54% ・図書委員会児童によるおすすめの本の紹介や読み聞かせ、教職員によるシャッフル読み聞かせ（2回）も実施できた。 ○家庭における週間読書時間（のべ60分）を達成できたのは 15%と低かった。	B	○図書委員会活動を、計画的に継続して行っていく。 ・本年度実施した選書会を来年度も実施することで、児童の本への興味関心を高める。 ○読書感想文・読書感想画コンクールに参加することを通し、本への興味関心や表現力の高まりを目指す。 ○ほめほめ週間とリンクした読書週間を実施することで、本への関心や意識の向上を図る。	・教職員がシャッフル読み聞かせをすることで、いつも関わることが少ない先生と教室で触れ合うことが刺激となり、本の内容も自然に入ってきそうな気がした。とてもよい取組であると思う。 ・学習時間と家庭での読書がリンクした取組を次年度行い、成果が出るとよいと思う。 ・読解力がなければ学びにはつながらないため、本を読む機会を増やす取組や興味を持たせる工夫をしながら、一人でも多くの児童が読書の魅力に気付くようきっかけづくりにつながる取組をすすめていただきたい。	B
体	○体力向上・運動の習慣化	○敏捷能力の向上を図る。（50m走、県平均を上回る児童 50%以上：6月、1月） ○体育委員会の継続した活用を図る。 ○朝の体操、体育朝礼、体力アップ集会を計画的に実施する。 ○外部講師を招き、教師の指導技術向上とともに、体力の向上を目指す。 ○体を動かすことの楽しさに気付き、運動習慣に繋がる授業づくりを進める。・体育アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか」（肯定的評価 80%以上）	○全学年が実施し、敏捷性が向上した児童の割合 81% ○体育委員会が集会等で司会・進行を務めるなど活動できた。 ○朝の体操（やすだっ子体操）や体力アップ集会は計画的に実施できた。また、持久走大会に向け、カードマラソンの取組も実施できた。 ○外部講師を招いて水泳指導を行った。 ○体育アンケートを 1 回実施できた。「運動やスポーツをすることは好きですか」（肯定的評価 97%）	A	○敏捷能力の変化を検証する上でも、来年度も実施する。 ○朝の体操、体力アップを計画的に実施する。 ○外部講師を招き、水泳の指導力を高める。 ○委員会活動を積極的に行うことで、児童の意欲向上に努める。 ○体育アンケートを実施し、結果を有効に活用し、授業や体育行事の改善に繋げていく。	・計画的に体力向上に向けた取組ができているのがよい。 ・高知県体力運動能力調査等を活用して児童の実態把握に努め、体力向上、健康の保持増進にかかわる取組を計画的、積極的に取り組んでいただきたい。 ・外部講師を招聘して専門的な指導のもと水泳の指導力向上に努めていることがわかった。	A
	○健康教育の推進	○生活実態調査を、各学期1回実施する。「早寝（低 9:00 中 9:30 高 10:00）、早起き、毎日の排便の習慣」各 60%以上 ○生活改善啓発のため通信・学級懇談を通して保護者・児童に定期的に働き掛ける。 ○必要に応じ児童、保護者に対して個別指導を実施する。	○「早く寝る」⇒61% 「6 時半までに起きる」56% 「毎日の排便」76%であった。 ○各種アンケートは、計画的に実施・分析を行った。結果については、通信で情報発信した。 ○児童や保護者との個別面談（アレルギー・肥満・偏食等）を実施し、現状と課題を共有した。	B	○保護者面談や個別指導を行うなど、現状や課題を共有し改善に向けた取組を推進する。 ○アンケート結果を検証し、以後の支援に生かす。 ○通信等で情報発信していく。	・各種調査を実施し、生活習慣の把握に努めていることがわかった。今後も計画的に取組をすすめていただきたい。 ・児童や家庭に通信や個別面談等で働きかけができている。 ・基本的な生活習慣は、生涯にわたって大切なことである。定着には課題も多く改善が難しいこともあると思うが、さらなる取組と家庭への啓発に努めていただきたい。	B
横断	○不登校への総合的対応	○学校生活アンケート、QUアンケートの実施、分析を行う。（年 2 回）【不登校児童、別室登校児童：各0人】 ・学校評価「学校生活が楽しい」85%以上 ・道徳意識調査「いじめをゆるさない」100% ○校内支援会、特別支援研修を実施し、教職員の共通理解・認識を図り、早期対応を目指す。 ○SSW による保護者・家庭への支援を継続して行う。	○各種アンケートは実施できた。不登校傾向の児童は数名いる。【不登校児童、別室登校児童：各0人】 ・「学校生活が楽しい」95% ・「いじめをゆるさない」98% ○校内支援会、特別支援研修は計画的に実施できた。 ○SC, SSW と連携することで情報の共有化が図られ、児童の不登校解消にもつながった。	B	○SSW、専門機関と連携し、情報の共有を図る。 ○アンケートや Q-U の結果を分析し、全教職員の共通理解のもと支援するように努める。 ・校内研修を継続して行い、児童理解や支援の方法についての学習を進め、指導力を高める。	・児童一人一人の実態を把握し、児童理解に努めることは、学級経営で一番大切なことである。日々児童の気持ちに寄り添い、理解しようとする姿勢をもちながら接する中で、信頼関係構築に努めていただきたい。 ・先生方の地道な支援と専門機関との連携等で情報共有を行い、不登校解消に向けて取組をすすめていることがわかった。今後も継続した取組と連携をお願いしたい。 ・低学年では、どんなことがいじめになるのかが分からない実態があると感じた。いじめの問題は学校において切り離せない課題である。	B
	○学校における働き方改革の推進	○校務支援システムの効果的な活用による時間短縮や、職員の意識改革を推進する。 ○退勤時間日の設定。（月 1 日以上） ○時間外勤務（月45時間未満 40%、80時間未満 90%）を目指す。	○校務支援システムを、職員会や部会等で積極的に活用した。 ○定時退校日を月1～2回設定し実施した ○時間外勤務（月45時間未満 67% 、80時間未満 100%）	B	○継続的な声かけ、退校日の設定を行い、教職員の意識を高める。 ○校務支援システム等を活用し、校務や議会の簡素化を図る。	・勤務時間内で効率的に業務を行う等、働き方改革の推進に向けて教職員の意識づけを図っていただきたい。	A
	○防災を中心とした安全教育・安全管理の充実	○校内安全点検を行う。（学期1回） ○避難訓練・防災授業・防災参観日を実施する。（年5回） ○危機管理マニュアルを見直し活用する。	○校内安全点検は計画的に実施し、整備を随時行った。 ○避難訓練は多様な場面を想定し、5回以上実施できた。引き渡し訓練も実施した。 ○危機管理マニュアルの見直し改善を図った。	A	○毎年危機管理マニュアルの見直しを行う。 ○避難訓練は、内容を見直しながら継続して行うことで、教職員、児童の意識を高め、対応力を付ける。	・毎年マニュアルを見直していただいていることで、安心感をもつことができた。 ・計画的に避難訓練を実施し、防災授業も公開する等の取組を行ったことで、子供たちの意識も高くなってきている。	A
	○デジタル技術を活用した「学校の新しい学習スタイル」の構築	○「タブレット、電子黒板、プログラミング」等の実践や活用に向けた研修を行う。	○活用に向け校内研修は実施した。ただ、タブレットの活用については、学年によって温度差がある。今後の課題である。	B	○継続した活用に向けての研修や検証を行う。 ○活用する場を、全校で意図的に設定することで、活用頻度を高めていく。	・低学年のタブレット活用頻度を増やしていただきたい。 ・ICT 等の情報活用能力は、これからの時代必須となるため、発達段階に応じて楽しく活用できるようにしていただきたい。 ・教職員の ICT 活用に向けた校内研修が実施できていることがよい。	B